

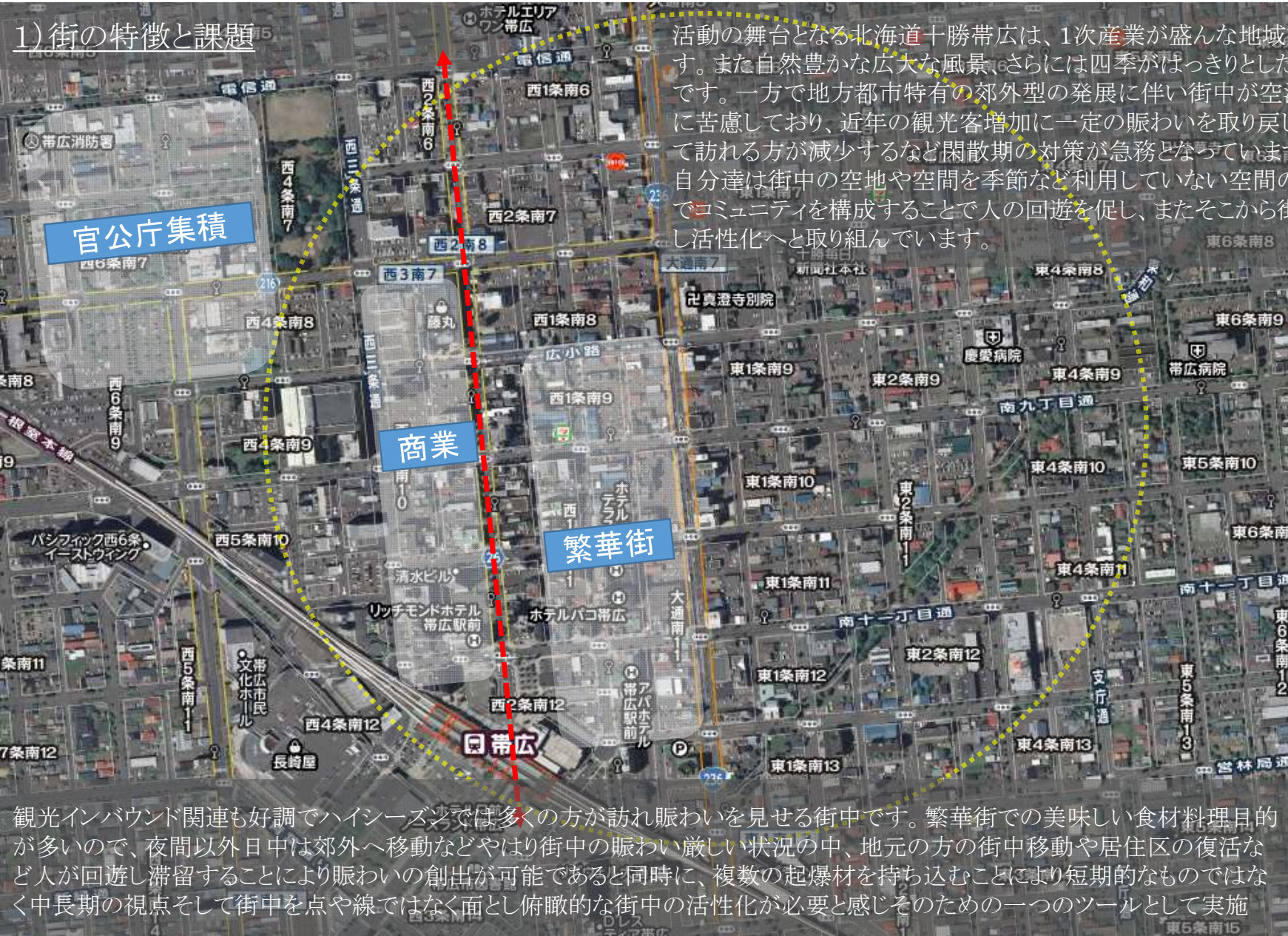
TOKACHI ICE PARK

まちなかの賑わいの創出～地域にある素材の魅力を活用して

TOKACHI ICE PARK 実行委員会
北海道帯広市市街中心



1) 街の特徴と課題



活動の舞台となる北海道十勝帯広は、1次産業が盛んな地域で畑作など国内有数の食料基地です。また自然豊かな広大な風景、さらには四季がはっきりとした恵まれた環境に包まれている地域です。一方で地方都市特有の郊外型の発展に伴い街中が空洞化し、居住区が減少するなど対策に苦慮しており、近年の観光客増加に一定の賑わいを取り戻しつつも、冬については郊外も含めて訪れる方が減少するなど閑散期の対策が急務となっています。自分達は街中の空地や空間を季節など利用していない空間の有効活用を図りそこにポップアップでコミュニティを構成することで人の回遊を促し、またそこから街全体を回遊するプログラムを検討し活性化へと取り組んでいます。



遊休地・空地・青空駐車が目立つ



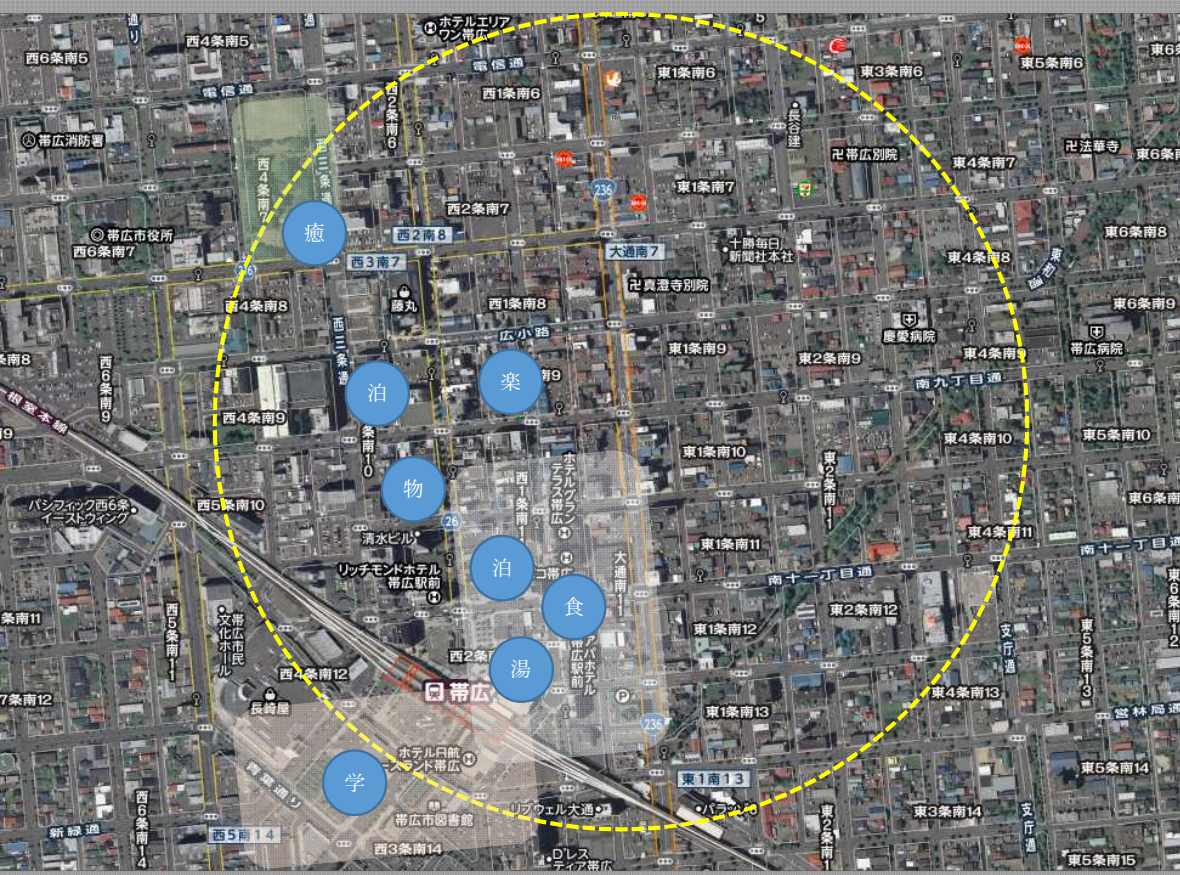
空きテナントが多い



観光客で賑わう(冬期は閑散期)
地元の方の街中離れ

観光インバウンド関連も好調でハイシーズンでは多くの方が訪れ賑わいを見せる街中です。繁華街での美味しい食材料理目的が多いので、夜間以外日中は郊外へ移動などやはり街中の賑わい厳しい状況の中、地元の方の街中移動や居住区の復活などが回遊し滞留することにより賑わいの創出が可能であると同時に、複数の起爆材を持ち込むことにより短期的なものではなく中長期の視点そして街中を点や線ではなく面とし俯瞰的な街中の活性化が必要と感じそのための一つのツールとして実施

2) 街空間の作り方に一つとして



空き場を中心として既存ストックの利活用を図りながら街全体の人々が楽しく回遊出来る「まちなか」を展開します。そこには泊・遊・楽・食・湯・癒・学・物などが点在配置され、それぞれの目的のために人は自然と街中を移動し回遊する。そこに楽しめる場を複数連動することにより、大きな効果を生み出すと考え、冬にはスケートリンク、夏にはアウトドア等を遊休地を舞台に展開し人の誘導を誘発し、同時に空きビルなどを活用して様々な生活空間を造る「まちやど」とが複合的に左右されることで、変化を与えて今後の中長期への展開へ進化する。その一つを先行してリンクという姿で実行した。

3) 遊休地の価値



遊休地や空地には様々な要素があります。全く利用しない所・事業着手までの期間利用しない所・季節により利用する所等々
試行的に実施した場所は「事業着手前の遊休地」夏にはビアガーデンなど数回の利用はありますが、冬には降雪により雪の溜まり場となっていた場所であり呼吸していない敷地。ここで自分達が考えていることは既存の改変を最小限として仕掛けを生み出し、街中の風景一つにすること。開発ではなく利活用です。人が集う場は自然のコミュニティになり繋がることが街の灯に



1) 主体性・協調性

本プロジェクトの特徴は、街中の賑わいの創出の想いを共有する市民有志で立案実施したことです。さらに地元の方も賛同し参加し、また地元企業さま団体さまも後方支援していただくなど、地域の皆で協力し手作りしたということです。決して華美ではありませんが、人と人が繋がり合うことで出来ること、そして今までは街中に来る機会が少なかった子供達や若い人がここで集い楽しみながら、このリンクの意味を知り整備を手伝ってくれるなど、次世代の子供達が感じてくれたことは、今後の街中の活性化への大きな財産でもあり糧となります。また2030年には冬期五輪札幌(スケートは十勝を軸)の招致活動がある中で、地域さらにスケートが上がることは有効であり、招致の関係機関からも連携を頂くなど、地域一体となった取り組みとなっています。



帯広のメインストリート横で活気づくリンク。幅広い年代が滑りを楽しむ



リンクで繋がれ まちなかへの思い TOKACHI ICE PARK

帯広市中心部 駅北多目的広場(西2南1)に現れたスケートリンクに、歓声が響く。「冬のまちなかに『まわを』」。有志の手弁当で始まった「TOKACHI ICE PARK プロジェクト」(実行委主催)は、地域ぐるみで十勝の冬の魅力を発信する起爆剤となりそうだ。プロジェクトは2016年秋、平昌五輪で熱を帯びる十勝で、冬のまわい創出やスケート文化醸造を目指して立ち上がった。当初のメンバーは公務員や飲食店主など4人。思いに賛同した市民や企業を巻き込み、旧北洋銀行帯広ビル跡地にリンクを造成した昨年は、約1400人が訪れたという。今期は昨年12月13日から水まきを開始し、暖冬で気をもみましたが、実行委員長の谷保明洋さんは苦笑いする。それでも水が地中に浸みないようヒートシートを敷くひと手間をかけ、昨年より半月早い同22日の開場にごき置けた。

はしゃぐ子どもや若者、10数年ぶりの氷の感触を懐かしむサラリーマン。初のスケートで笑顔を見せる観光客。リンクは連日にぎわい、地域にこれほどスケート愛が潜在していたことに驚かされる。まちなかに子どもが集まるだけでなく、新しいこと、新たな交流の場となればと谷保さん、地域への思いが募いだ空間は、どんな未来を描くのか。



オープン控え、約600㎡のリンクに毎日水をまく協力企業の東光舗道(昨年12月中旬)

「冬の十勝を元気に」。思いを重ね集まった実行委メンバーは現在20人、協力企業も30社を超えた

スケート靴のレンタルは1回500円。近隣施設で引換券を購入する。引換券配布場所はHPを確認

今回から「おびひろ夢あかりアート」の街実行委員会とも連携。夜の会場は灯りで彩られる

2) 独創性・斬新性

街の中にリンクは首都圏ではアクティビティとして幾つかありますが、実際の郊外にあるような自然スタイルのリンクを形成しているのはほぼありません。これこそがこの地域の持つ魅力の一つと考えています。寒さ・雪そしてスケート王国がこのプロジェクトをそして街の活性化のツールとなっています。単純に水をまけば出来るものではありません。自然環境と共存しながら日々の設営及び管理があり出来ます。訪れた皆さんがこのリンクが一番厳しい環境の街中にあることに驚き、そして感動してくれました。夜間にはこの地域のおびひろ夢あかりアートの街というイルミネーションの団体と連携し、冬に雪と氷と灯りという幻想的な空間を創造することが出来、単調な街中の色にアクセントを与えるなど、様々な地域から来られた方から「自分の地域にも作ってみたい」「協力してください」などの声を多く頂けたことが、大きな効果であったことの実感に繋がっています。

3) 先導性・モデル性

地方都市では空地＝駐車場利用、また冬は雪の溜まり場(除雪しない)としてのみの利用が大部分であり、夏よりさらに未使用空間が増えます。その空地や遊休地を利用する取り組みが地域の展開の先導性を示すことが出来ました。1年目では事業開始前までの民有地の利用、2年目は市の多目的広場(冬は未使用)と、状況に応じて利用可能な未利用な空間を使用するなど、ポップアップではありますが、まだまだ多毛作的な利用と同時に、空きビルなどの利活用の推進にも繋がるものとなりました。そこには、馬が来てソリを引き、キャンプ場が出来、国内外からの人が十勝帯広の魅力を体験することが出来、本格的な場所へ行くプチ体験の場になり、また平時では出来ないことを「やってみる」では、プレゼンテーションを野外でオープンで、またポップアップでカヌーが出来るプールと、メインのパーツに加えて余白を設けて、他のパーツも加えた複合空間で賑わい創出。建物や都市形成にも繋がるものがありました。



4) 持続性・成長性

2年目を迎えた前回では、「街中にある冬の異空間」から「ここにリンクがあって当然」という感覚の変化が大きな成長になります。毎回終了後からは次回への要望の声も多く、同時に関わる有志の数も増えて来るなど、行政からも冬の街中の新たな風物詩にとの意見もあるなど、持続性が確立してきました。また、札幌や日光など他の地域のスケート関係者も訪れ感動し、次回からは全面的に連携して取り組むことが計画されているなど、スケートを通じた地域間連携の姿へと成長していくと考えています。

OBIHIRO SKATERS CLUB
EVENING SCHOOL

2019 FEB 20(WED)
 TOKACHI ICE PARK

By
 NIKKO SKATERS CLUB

2019年2月20日(水)17:00-18:00
 TOKACHI ICE PARK 十勝帯広多目的広場 帯広駅前 商業ビル
 問い合わせ先 帯広スケートクラブ 0157-2311019
 WWW.NIKKOSKATERSCLUB.COM



5) 公共性・波及性して

このプロジェクトは単なるスケートリンクではなく、街中の活性化そしてまちの作り方等の視点も含まれた取り組みの一つです。開催し訪れた方々との会話・交流から得る皆の街に対する考え方、年齢構成・地域構成など様々なデータベースを蓄積して、今後の街中の展開の参考の一つにすることができ、また、公共性を高め無料で利用出来るようにとボランティアそして地域の皆様のご支援ご協力により実施出来ている事など、地域が地域を想い実施することにそして次世代の子供達への姿形として継承することが出来ました。他の地域からも自分達の地域でというコメントの他、この地域にも空間や既存の利活用により出来る事や価値を示すことが出来たと感じています。



街の活性化には当然に街の構成や建築物などのハードは必要でありながらも、やはり一番は人が楽しくそこから生まれる笑顔の集積が大きな糧となるものと思っています。この地域をこよなく愛して、子供達にも魅力的な地域に住んでいることが誇りですと胸を張って言えるそんな環境が地域をそして心の豊かさが生まれるものと思っています。そのために空間をどのように利用するか出来るかなどを様々な視点から考える事が出来ればと思っており、今回はその中の一つとして展開出来た事に地域の皆様に感謝しております。継続を望む声が多く、当方としても継続することの大切さを実感していますので、また次の冬はよりよい冬の街中の一つの風景になればと思っています。

